



夕刊 第三千六百二十一號

詩南車。短歌評

池上富司

歌評を出してゐる窓口に、自ら「子等がぬれて行く」なる批評になるかどうかは不自然な感じがする。...

新歌壇

小山田 滋選

窓邊の春が虹をおどらしてゐる。妻ははらんだんぢやないか。...

お蘭陀お蝶

渡邊歌作

「お蝶さん、そんな事ぢやない。あれ、そんな事ぢやない。...

社会の今日

何見ま、老の眼鏡や初

冬晴れの空の遠きに黒々と、見ゆる山なみ。...

梅枝はわざと落着き拂。それが訝しいではあ。...

挿話

梅枝はわざと落着き拂

「さ、それが訝しいではあ。梅枝はわざと落着き拂。...

お蘭陀お蝶

渡邊歌作

「お蝶さん、そんな事ぢやない。あれ、そんな事ぢやない。...

社会の今日

何見ま、老の眼鏡や初

冬晴れの空の遠きに黒々と、見ゆる山なみ。...

お蘭陀お蝶

渡邊歌作

「お蝶さん、そんな事ぢやない。あれ、そんな事ぢやない。...



「お蝶さん、そんな事ぢやない。あれ、そんな事ぢやない。...

「お蝶さん、そんな事ぢやない。あれ、そんな事ぢやない。...

乗用自動車貸切賃金表 (五人乗一臺) 市内五〇〇 市内往復八〇...

共済病院案内 院長 醫學博士 石山謙 院址 平町田町...

御料理 八千代 平町田町 電話三七五番

金銀高價買入 純金九圓十五錢買入 金光堂時計店...

各 福島縣自動車協會平支部 八年一月一日

夜 胃腸毒 科 內科 外科 婦人科...

木村外科醫院 平町六丁目(橋際) 電話三〇九

漆器店 各種漆器 専門卸小買 店員募集...

晝夜の別無く到る處 熱狂的歡迎に感激

八日夜 野崎 清君 (好問) 通信
歩二九ノ七 野崎
出陣二ヶ月前充分の御指導と御後援下され...

一昨年に較べて 約六分方の赤字

平驛昨年中の乗車人員並に貨物運送状況左の如く一昨年より約六分の減である
(括弧内比較値)
旅客乗車三三六、六五二、二八

依然逃げる金が多い

平郵便局去月分の貯金爲替取扱状況左の如く依然經濟界の沈滞を物語るものである
(括弧内昨年分)
貯金受入九九〇、九〇九、六

萩原礦業所送炭激増

客臘中数年來の記録を破る
地方の各炭礦は最近激増年とされて折柄萩原中八氏名古屋炭礦の活況を、その獨力經營に保る由炭礦...

水害地免租

六日付指令
郡内水害地の免租は去る六下米は今日日當局から債権者二十八名に對して夫日付で仙臺稅務監督局から當り七百五十五俵々適當に分配する事となつ

極貧者の 拂下米割當決定

平町 二百五十俵
平町が風水被害者救済の拂下米に決定した旨の郡内水害地の免租は去る六下米は今日日當局から債権者二十八名に對して...

當の教諭が登校して 磐中問題危く逆轉!

同窓會長の抗議で一時落着
受給生徒に於ける教育が甚だお口の約を重んじて問題一ヶ村十五青年團の部第三...

赤井嶽男記

第二回生の巻(續)
のち振りに就て「八木澤先生は藝者を酷く罵つたり暴れやんすやうな言ひをして、...

兒童を轢傷

運轉手告發
小名濱町横町三三三番地にて泥濘暴行を働き平驛の運轉手藤原三三三(三十七)日午七時、...

平商生實習

舊正二日に出勤
平商校では例年の如く舊正千餘石より引一千餘石を輸入超過であつた

一千石入超

郡下の酒消費高
平稅務署管内に於ける六酒會並酒販會を開催した

十五少年盗みの行脚

平署から親許へ引渡さる
昨九日午後四時頃自動車で後二時半頃湯本町湯本領城草野村から平町へ来た無一...

轉轍機電化

平驛で近々中實行
平驛では今回新設した電氣轉轍機動作試験のため今日午前八時から午後四時...

朗らかな仇討

村上時政作
丹後宮津藩士、中尾新八郎の屋敷で、新八郎とて、十二三とも見る紅顔の美少年がとびこんできた



「朗らかな仇討」(前)
上がらうとした時、襖が、如何なる仔細で、そのやが、やうにあつて...

井坂醫院
平町田町 電話 五五九番
院長 井坂 耕作

廣告
平町田町 電話 五五九番

上田醫院
平町 電話 一一九
院長 上田 耕作

川崎 幸治
内野 元
古和 虎
高野 得
高野 健